

青雲

一般社団法人

島根県出雲地区建設業協会青年部会

〒693-0028 出雲市塩冶善行町2-2

TEL : 0853-21-1187 FAX : 0853-21-2454

出雲地区ホームページ (<http://www.shimakenkyo.or.jp/izumo/>)
青年部会の活動についてもご案内しています。是非ご覧下さい。

19号 2017.3

発行人 一般社団法人島根県出雲地区建設業協会青年部会

青雲

19 MAR. 2017 VOL.19 CONTENTS

【巻頭言】

1 確かな将来を描き“ステップアップ”

一般社団法人島根県出雲地区建設業協会青年部会 部会長 山崎 育男

【次世代建設就業者育成事業】

3 現場見学会・意見交換会の概要 4 斐伊川新田川現場見学

5 斐伊川放水路事業説明/建設機械搭乗体験 6 意見交換会

7 テレビ放送・新聞記事掲載

9 出雲農林高校生の感想文

13 しまね建設産業イメージアップ女子会

14 アンケート結果

17 次世代建設就業者育成事業(現場見学会)を実施して感じること(考察)

18 出雲農林高校(環境科学科)中学生一日体験入学支援事業に参加して

【平成28年度事業報告】

19 クリーンアップ道路清掃 地域貢献委員会 委員 (有)川角建設 川角 宣広

20 研修視察 会員交流委員会 委員長 (株)三原組 三原 惇志

21 土木の日記念イベント 地域貢献委員会 副委員長 今岡工務店 今岡 宏典

22 意見交換会2016 経営研究委員会 委員 岩成工業(株) 西村 善文

23 平成28年度卒業生より一言

ミシマ産業(株) 三島 一男/ヒカワ工業(株) 菖蒲 修

24 平成28年度新入会員紹介

大和建設(株) 布野 智大/ (有)ナギラ建工 柳樂 則昭

25 トピック『どじょうすくい』 総務広報委員会 委員 安部 希芳

編集後記 総務広報委員会 副委員長 江角 洋介

確かな将来を描き“ステップアップ”

一般社団法人
島根県出雲地区建設業協会青年部会
部会長 山崎 育男



変革の年と言われた2016年申（さる）年、世界ではアメリカ大統領選挙で「アメリカファースト」、「TPP離脱」を唱えたトランプ氏の勝利、イギリスでは国民投票でEU離脱を決めるなど脱グローバル化の流れが起こる中、日本経済にはアベノミクス成長戦略の見直しを含め対応が求められる可能性があり、大きな衝撃と先行きの不透明感が渦巻きました。

国内では震度7を2度観測した熊本地震、鳥取県中部地震の発生、北海道や東北地方での相次ぐ台風の上陸、局地的な豪雨・出水と全国各地で自然災害の脅威にさらされる1年となりました。毎年のように自然災害による悲劇が繰り返されるたびに、地域建設業者が最前線で緊急対応を行い住民の安全・安心を確保する地域の守り手としての役割を担う様子がマスコミにも取り上げられるようになり、建設業のイメージの変化が感じ取られるようになったと思います。今後も地域の安全・安心を守ると言う社会的使命を果たしていくためには、企業経営の安定化を図り、災害や除雪等への対応に必要な人員・機材を維持しておく必要があります。

全国建設青年会議第21回大会は、平成28年12月2日、東京において、魅力ある地域建設産業の未来構想－国土をつくる「人」をつくる－という大会趣旨で開催されました。

人口減少が加速して高齢化が進む中、地方から都市への若者層を中心とする担い手流出に歯止めがかからず、建設産業においても人材離れ・超高齢化・入職者激減は深刻の度合いを越え、加えて経済的要因・諸政策・産業構造の変化によって建設投資は大きく失われました。しかし、我々に課せられた使命、我々にしかできない誇り高き役割りを再認識し、担い手三法が整った今、我々自らが若者や女性を惹きよせ、今を共にする技術者をしっかりと育成していき『国土をつくる「人」をつくる』ために、地域建設産業の原点を見つめ直すとともに、確かな将来像を描いて発信することが重要です。さらに大切な仲間と共に現場に立ち、見て、聞いて、感じたことの一つ一つを丁寧・愚直に改善していき、また既成概念にとらわれることなく、社会の変化やニーズを敏感に読み取り、新しいことにも勇気をもって取り組んでいく。この我々の姿勢こそが、地域建設産業の魅力を一層高め、新たな仲間を呼び込む、理想と幸福に向かう一步一步の原動力であることを確信しました。

出雲地区建設業協会青年部会では、従来から実施している小学生・中学生を対象とした建設産業の魅力発信や、高校生を対象とした現場体験などの事業を新たな取組みとして「しまね建設産業イメージアップ女子会」と共に実施し、将来的な女性技術者の確保につなげる新しい魅力発信を行ってきました。その中で我々自身も女性の働きやすい環境づくりなど原点を見つめ直す勉強にもなりますし、確かな将来像を描いて発信することにより魅力を一層高め、新たな仲間を呼び込む活動を展開して行きたいと思えます。

今年、創立20周年を迎える我々青年部会は、「次世代を担う若き建設人の資質向上」と「時代の過渡期における協会組織力の強化」を創立の趣旨に掲げて平成9年7月に発足しました。偉大なる先輩諸兄の熱き情熱と卓越したリーダーシップによって積み重ねられた素晴らしい実績とご意志を引き継ぎ、創立の趣旨に恥じぬ活動を部会員一同取り組んでまいりますので、引き続き関係各位のご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。



このロゴマークは、建設産業のイメージアップを目的としたロゴマークです。

次世代建設就業者育成事業の背景と目的

“建設業に求められる若手人材の確保と育成”

近年、建設需要は東日本大震災の復興工事や安倍政権が打ち出した積極的な経済対策などによって増加に転じているとはいえ、大都市と地方との地域間格差、さらには大手と中小での企業間格差が顕在化しており、地域の建設業は依然として厳しい状況に置かれています。

また、業界の雇用環境も若年技術者・技能労働者の入職者の減少、技能労働者の高齢化といった構造的な問題も深刻な課題となっており、将来の建設業の担い手となる若年者に対して建設業の魅力を発信し、「ものづくりの喜び」「やりがいのある」業界であるというメッセージをしっかりと伝えていく必要があります。

我々青年部会では、出雲農林高等学校環境科学科2年生を対象に現場見学会に合わせて発注者や若手技術者を交えた意見交換会を実施し今年で4年目を迎えました。参加者に建設業の魅力が伝わり、建設業の社会的使命の重要性などを再認識してもらうことを通して、建設業への入職定着に繋がり、将来を担う若い人材として育っていくことを期待したいと思います。

現場見学会・意見交換会の概要

- 学校名 島根県立出雲農林高等学校 ● 開催日 平成28年11月8日(火)
- 現場見学参加者 環境科学科2年生40名、教員3名

9:00~9:30	出発 出雲農林高校 ⇒ 着 工事現場 オリエンテーション(車中)
9:30~10:50	●現場見学会 国土交通省 中国地方整備局 出雲河川事務所 斐伊川新田川背割堤整備第3工事 大福工業(株) 国土交通省 出雲河川事務所 平田出張所 神庭所長様挨拶 農林高校生 挨拶 (体験内容) ①施工現場視察・説明(現場監督 大福工業・大島) ②ICT活用工事の説明⇒ TV画面等にて説明(トソーク) 3次元起工測量 ドローンによる空中写真測量(実演及び写真撮影等含む) 既存データによるUAV測量から3次元データ作成までの説明 ③その他 ・最新の測量機器等 機械等(西尾レンタル提供) ・快適トイレ及びソーラー付き事務所の視察 ・その他etc
10:50~11:00	出発 工事現場⇒ 着 放水路分流堰
11:00~11:50	●現場見学会 農林高校生 挨拶 斐伊川放水路分流堰 見学 国土交通省 出雲河川事務所による放水路事業説明
11:50~12:00	出発 放水路分流堰⇒ 着 出雲建設会館
12:00~13:00	昼食・休憩
13:00~13:15	出発 出雲建設会館⇒ 着 三和興業ヤード(古志)
13:15~14:40	●建設機械搭乗体験 農林高校生 挨拶 建設機械搭乗体験 (株)板倉重機 バックホウ(0.8m3級) 2台 アーティキュレートダンプ(40t級) 2台 ・しまね建設産業イメージアップ女子会
14:40~15:00	出発 板倉重機ヤード(古志) ⇒ 着 出雲建設会館
15:00~16:30	●意見交換会 (出雲建設会館) <ul style="list-style-type: none"> ・部会長開会挨拶 ・出雲河川事務所職員 八木様 ・出雲河川事務所 藤原課長様 ・現場見学体験者 (株)中筋組 玉木様 ・しまね建設産業イメージアップ女子会(株)フクダ 加本様 ~休憩~ ・意見交換会 ・アンケート ・閉会挨拶
16:35~16:50	出発 出雲建設会館 ⇒ 着 出雲農林高校

斐伊川新田川工事現場見学

背割堤整備第3工事



大福工業(株)大島様より工事概要の説明



ドローンによる空中写真測量の実演



最新測量機器の説明



女性専用「快適トイレ」の視察



テレビインタビューに答える生徒



分流堰、雨で滑りやすくなっているので足元注意!



神戸川放水路管理室 河口様より説明を受けました

斐伊川放水路事業説明



お礼にシクラメンをいただきました

建設機械搭乗体験



板倉重機ベテランオペレータの皆様



いざ、搭乗!「足が届かなかあ」



みんな真剣に操作方法を聞いています





出雲河川事務所 藤原課長様



アンケート結果をグラフにまとめて意見交換会の様子



出雲河川事務所 八木様



しまね建設産業イメージアップ女子会 (株)フクダ 加本様

意見交換会

第1部 講演、若手・女性社員の体験談
第2部 アンケート結果をもとに意見交換会



生徒からの厳しい質問で答えに悩む副会長



現場見学体験者 (株)中筋組 玉木様

現場見学会・意見交換会に参加して



島根県立出雲農林高等学校
環境科学科2年 大 国 優 斗

現場見学会では、工事中の現場の見学とドローンなど最新機器を使用させていただき、日本の科学は改めてすごく進歩していることを感じました。

建設機械の搭乗体験では、実際に動かすことが初めてだったためとても苦戦しましたが、優しく指導してもらい自分なりに上手くできたと思えました。

意見交換会では、建設業の悪いイメージの「3K」だけでなく、「新3K（給与・休暇・希望）」の良いイメージのことも聞き、将来そんな風を感じられたら良いと思えました。

建設業のイメージは初めは悪かったのですが、農林高校の実習をしていくたびに、だんだんイメージが変わり、さらに興味を持つようになりました。改めてイメージを良くすることは大切だなと思えました。

最近のニュースでJR博多駅前の道路陥没の事故が発生したという情報を目にし、突然の陥没にテレビで見ている側もとても驚きました。このニュースを見て、改めて工事の安全管理はとても重要なことを知りました。

インターンシップでは、配管工事関係を体験をしました。「指差呼称」という動作から何よりも安全が第一ということを知り、JR博多駅前の事故をはじめいろいろな事故に関するニュースを見ると、やはり安全が第一だなと実感しました。

僕は、農業土木に関係する仕事につきたいと思っています。周りから農業土木や建設業に関係する仕事は、「きたない」「きつい」「きけん」と思われています。自分も正直これまではそのように思っていました。でも、こうして体験や見学をすることによりイメージが変わりました。

意見交換会で講師の方から聞くことができた「地域に貢献（こうけん）」「周囲の方々に感謝（かんしゃ）」「人との出会い、関わった工事の完成に感動（かんどう）」という3Kのお話は、建設業での働き甲斐や充実感が伝わるもので、これまでの3Kとは無関係だと思えました。



現場見学会・意見交換会に参加して



島根県立出雲農林高等学校
環境科学科2年 吉川 凜

現場見学会・意見交換会に参加したなかで、建設機械の搭乗体験をさせてもらい、自分もこの様な機械に乗りたいと思いました。また、しまね建設産業イメージアップ女子会の方に教えてもらった建設業界の3Kと言われるものを知りました。きつい・汚い・危険というものでした。確かにそのイメージは僕にもありました。ですが、そんなイメージだけではないもっと良いこともあるんだと教えていただきました。

実際、現場へ行くと働いておられる人がやりがいと感謝の気持ちをもってやっておられました。そして3Kのイメージとは全然違いました。自分が普段の実習をしても確かに3Kを感じたことがあまり無いことに気づきました。とは言っても、決して楽ではないということも同時に感じますが、それがあから、やりがいなどを感じて仕事をしていけるのかなと思います。建設業界だけの話ではなく、農業をはじめ色々な職種で勝手なイメージを持たないようにしたいと思いました。

今回の体験を通して建設業界のイメージ、興味も広がりすごく良い時間になりました。斐伊川での工事見学や斐伊川で洪水が起きた時に神戸川の方へ流す施設を見学することができました。建設工事は町を安全にし、住んでいる人に安心してもらえるものを作る、そういう意味で本当に大切な仕事だと思いました。そして何よりも自分の中で良い体験になったのは、トラック、バックホウの搭乗体験です。建設に興味を持った大きな体験です。自分もあれを使って道路を作りたいと思いました。

僕は、元々製造業を希望していましたが、今は建設業希望です。3Kというイメージの捉え方は自分で変えることができます。危険と思うなら安全第一を考え、汚くなったらなったら頑張った証拠で、キツくてもやりがいを感じられるなら僕は良いと思います。3Kを良いイメージに変えていきたいです。



現場見学会・意見交換会に参加して



島根県立出雲農林高等学校
環境科学科2年 大野 美夏

現場見学会・意見交換会に参加して、先輩や会社の方から建設業界について話を聞くことができました。建設業は3Kと言われていますが、やりがいや達成感がとても大きく、地図にも残り人々が安全に暮らせる物をつくるすばらしい職業だと思いました。

建設業に限らずインターンシップ等でも分かりましたが、何の仕事でも簡単なことばかりでなく努力が必要だと思いました。

10月のインターンシップでは、仕事はただ言われたことだけをやるだけでなく、自分で考えてやることもあり、また常に周りにも気を配って安全に注意しないといけないことが分かりました。大きな重機が入らない所での様々な工夫を見て、現場代理人の方はそういう所もしっかり考えて決めていけないといけないので、私も細かい所にも気を配れる人になりたいと思いました。現場見学会では、まず始めにドローンを見せてもらい、ドローンを使うことによる便利さがよく分かり、これからはコンピューターがとても活躍する時代でより早く正確に測量が行えて良いと思いました。川を広げる河川工事は思ったよりも時間がかかり大変だと分かりました。斐伊川放水路分流堰の見学では、普段入れない所を見学させてもらい、ゲートの仕組みや役割がよく分かりました。毎日使うわけではないけど、もしもの時の為の備えをしっかりしておくことが大切だと分かりました。建設業はみんなが安全に暮らせるための大切な仕事だと思いました。

私は、将来建設業関係の仕事をしたと考えています。自分が携わったものが地図に残るという大きなやりがいや、みんなが安全に暮らせるものを作ったという自信などを味わいたいと思いました。トイレなどもどんどん快適になっているし、これからは女性の活躍の場が増えると良いです。



現場見学会・意見交換会に参加して



島根県立出雲農林高等学校
環境科学科2年 神田志穂

現場見学会でドローンを取り入れたり、他の測量機械を見たり、建設機械に実際に搭乗しました。意見交換会では、建設関係で働いている方たちのお話を聞き、これから土木関係の仕事につく人のために参考になることを聞きました。

農林高校の実習では主に測量をやっていて、建設機械に触れることはないの校外での実習はとてもためになることがいっぱいあります。私より年上の方がいっぱいいるので言葉に気を付けたり、工事現場で見学したり、実際に測量をして、色々な現場でしか体験できないことができました。

今回の現場見学会で、ドローンを使った空中写真測量を初めて見ました。空中写真で実際に計画している図面を出して、すごく便利になっているんだと分かりました。初めて見た測量の機械は、地盤の固さが簡単に分かりたり、一人だけでスマホとミラーを持って杭打ちが出来たり、作業人数が減り、早くて簡単に作業ができることが分かりました。

斐伊川放水路の見学は、普段行けないところに行くことができ貴重な現場見学でした。建設機械の搭乗体験では、バックホウの動かし方や、ダンプのアクセル、ブレーキの難しさを感じました。意見交換会では、建設関係で働いている方の話を聞き、職場について主に女性のことを話してくださいました。段々、女性の仕事の環境が変わって、とても働きやすくなっていることが分かりました。

私は、まだ進路のことで迷っています。今回の体験や働いている人の話を聞いて、3Kというイメージもありますが、女性でも働きやすい環境になっていき、やりがいを感じたり、自分がかかわった現場が地図に残るのはとても嬉しいことだと思いました。自分が関わり、色々な人たちが利用する、とてもやりがいのある仕事だと感じました。意見交換会で話されたことで、現場で体験をいっぱいして学んでいったほうがいいと言われました。本当に色々なものを学んで吸収していけたら良いと思いました。

私たちが普段使っている道路などは土木で働いている方々のお陰があり今の私たちの生活が成り立っていることを、今回の現場見学で改めて感じました。



しまね建設産業イメージアップ女子会

平成28年11月8日、出雲農林高校生を対象とした建設現場見学会・意見交換会に、「しまね建設産業イメージアップ女子会」（以下「女子会」という。）メンバーとして初めて参加させて頂きました。

まず、私たちが驚かされたのは女子学生の多さです。参加学生の3割が女子学生とのことで、自分たちの学生時代よりもこの業界に興味を持っている女子が増えていることを実感し、嬉しく思いました。

現場見学会で男女問わず大きなアクションがあったのは男女別の現場トイレでした。やはり学生達の中でも現場のトイレが綺麗という事は非常に驚きが大きかったらしく、「すごい!」「きれい!」という言葉が現場で飛び交っていました。将来の担い手確保という面から見ても、現場トイレの充実は非常に重要な事項であることを再認識しました。

また、建設機械の搭乗体験の合間には、女子会の活動を紹介する時間を頂きました。多くの先輩技術者が現場で働く様子を写した「建設産業イメージアップカレンダー」等を紹介すると、「かっこいい」の声と共に多くの学生がページをめくってくれました。私たち女子会がカレンダーを作る一番の目的は、将来の担い手となる学生たちにこの仕事の魅力を伝えることなので、学生達の反応を間近で見ることができ、女子会としても非常に貴重な機会になりました。

意見交換会では、女子会のメンバーの一人がパネラーとなり、自分の現場での経験や女子会活動の事をお話させて頂きました。自分たちの経験が少しでも学生の進路を決める上での後押しになればとの思いでしたが、学生の皆さんとの意見交換を通して私たちの方が建設業という仕事を見つめ直す契機ともなりました。

出雲地区建設業協会青年部の皆様には、このような貴重な経験をさせて頂きましたことに感謝しております。この1日を契機に、建設業への就職を志す学生が一人でも増えてほしいと願っています。



実施日／対象者

■…平成28年11月 8日／見学会参加生徒 40名

■…平成27年11月 6日／見学会参加生徒 19名

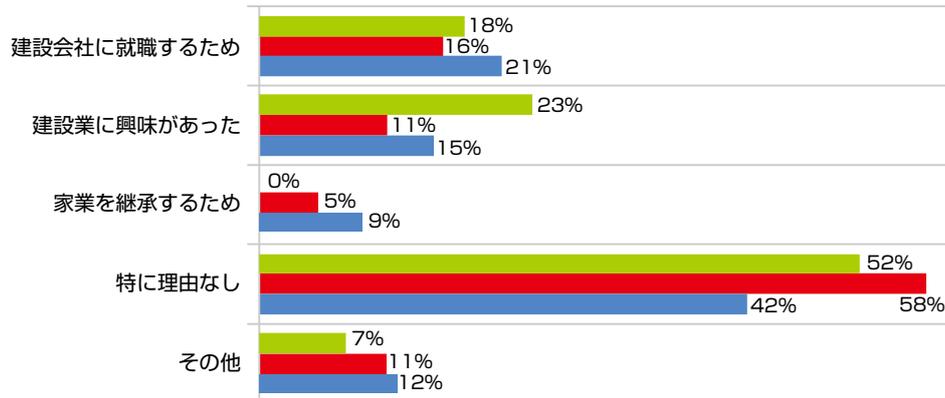
■…平成26年10月29日／見学会参加生徒 33名

アンケート結果

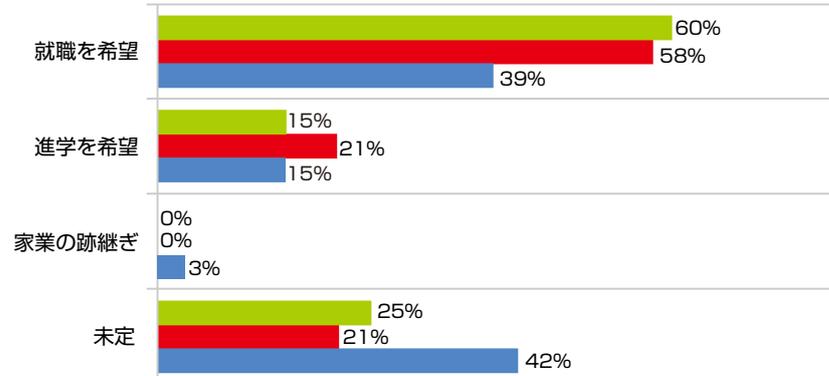
目的 我々、地域建設業界には、様々な問題が山積していますが、その中の一つに若手就職希望者の減少があります。この問題は若手技術者だけでなく、型枠大工や重機オペレーターなど様々な職種の技能工においても同様であります。このまま建設業就労者の高齢化が進むと熟練工の卓越した技術が若手技能工に継承されなくなってしまいます。これは通常の工事現場の問題だけでなく、災害等が発生した緊急の場合にも同様であり、豪雪時の除雪オペレーター不足は地域住民の方々の生活に密接に関係してくる問題であります。

こうした現況を踏まえ、これから我々青年部会が取り組むべき、若手就職希望者の確保・育成に資する事業の参考とするため高校生にアンケートを実施させていただきました。

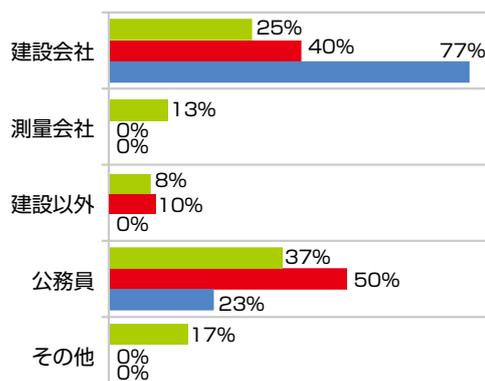
農林高校に進学した理由は何ですか



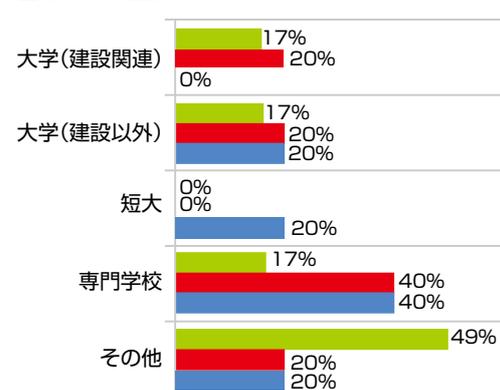
高校卒業後の進路について伺います



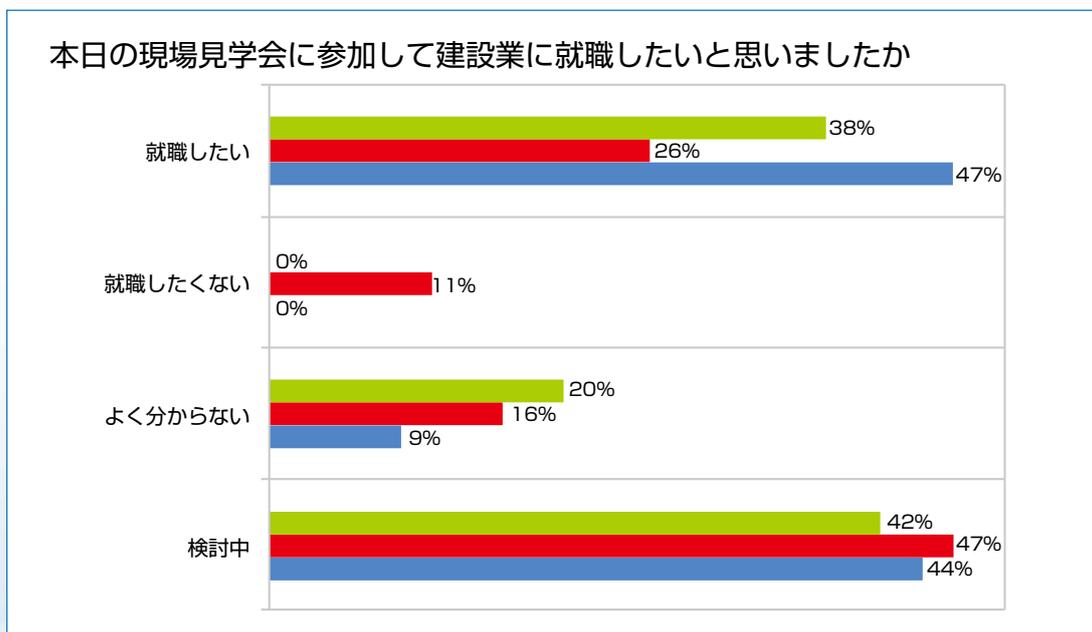
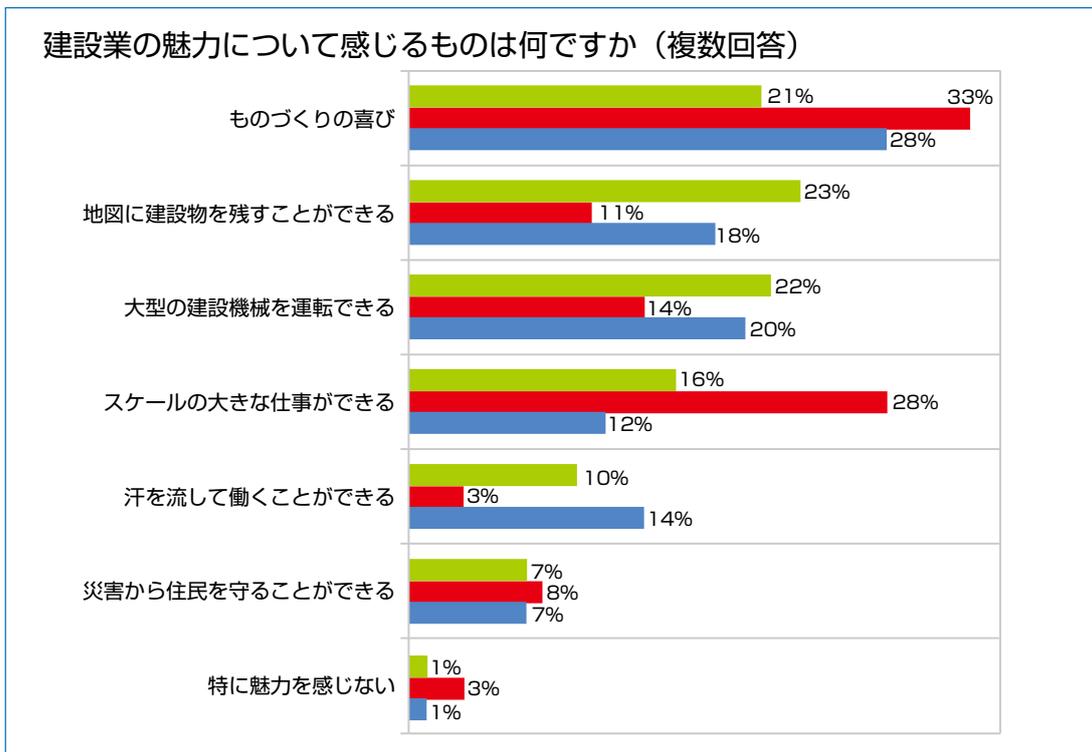
就職を希望した人



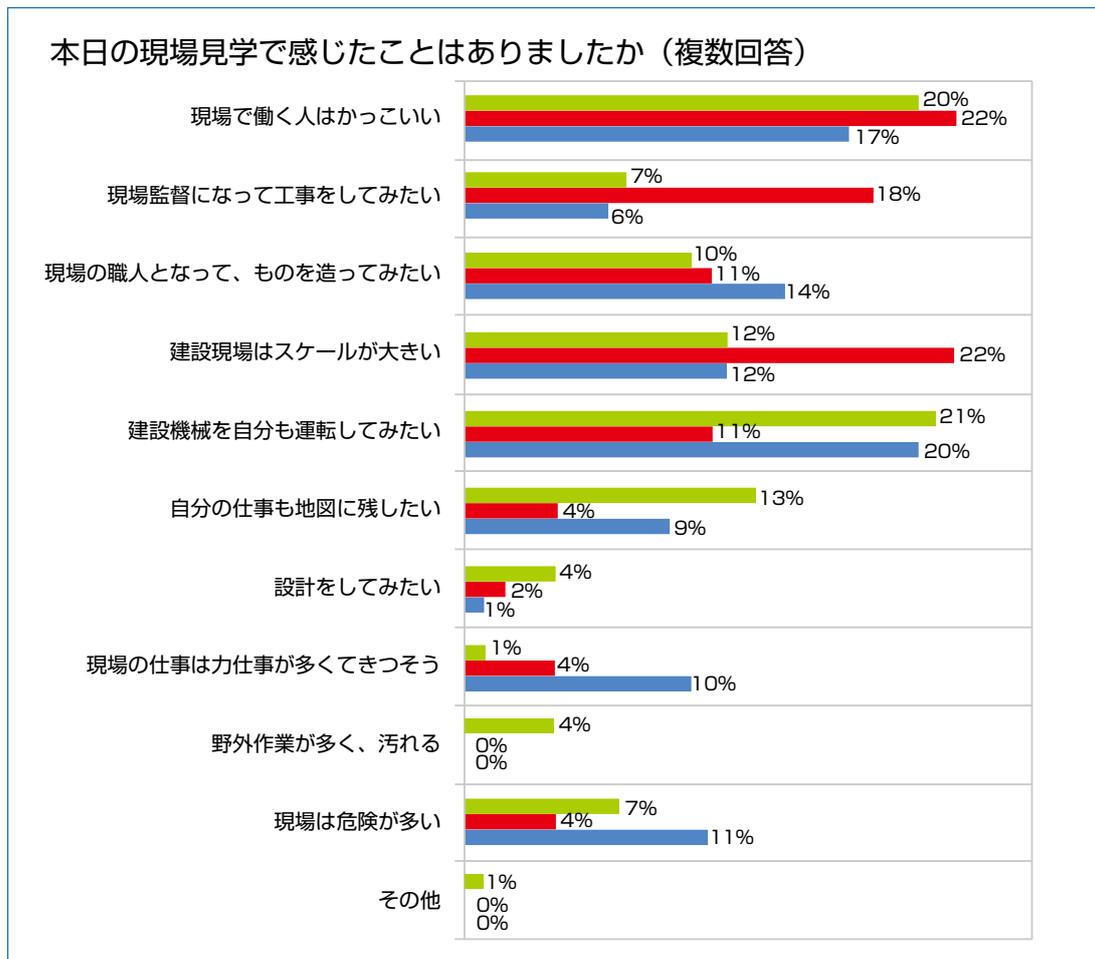
進学を希望した人



■…平成28年度
 ■…平成27年度
 ■…平成26年度



■…平成28年度
■…平成27年度
■…平成26年度



アンケート結果(まとめ)

H28年度の現場見学会・意見交換会では昨年度に比べ、参加生徒数が2倍の40名となり、女子生徒の割合も2倍に増えました。そのような中「農林高校に進学した理由を教えてください」の質問に対し、「建設業に興味があった」の回答がおおよそ倍増しています。また卒業後の進路について就職を希望する割合は前回とほぼ変わりませんでしたが、その就職希望先の質問では、「建設会社」の割合が減り、その代わりに過去2年間のアンケートでは0%だった「測量会社」の割合が13%に増えているという特徴がありました。この結果は今回女子生徒の割合が多かったためでしょうか。

今年度は、しまね建設産業イメージアップ女子会の皆さんにも初めて参加していただきました。女子生徒の皆さんは女性同士のコミュニケーションの中で、実際に現場で働いている女性の生の声を聴く機会があった事は、とても貴重な体験になったのではないのでしょうか。また男子生徒の皆さんにとって建設業界はまだまだ男性社会であるという印象が強かったと思いますが、イメージアップ女子会の皆さんとの一日のかかわりの中で、建設業界に携わる女性の印象が大きく変わったのではないのでしょうか。

続いて「本日の現場見学会で感じたことはありましたか」の質問に対し、今回は「建設機械を自分も運転してみたい」が最も多く選ばれていましたが、2番目に多かった「現場で働く人はカッコいい」の割合が毎年安定して高いことが印象的でした。

最後に「現場の仕事は力仕事が多くてきつそう」「野外作業が多く、汚れる」「現場は危険が多い」などの建設業の悪いイメージ、いわゆる3K(きつい・汚い・危険)と言われるネガティブな印象の割合が比較的少なかったのは、今回の事業を通して建設業に対するイメージが変化した結果であるとすればとてもうれしく思います。

次世代建設就業者育成事業(現場見学会)を 実施して感じること(考察)

現場見学会も今年度で4回目となりました。この事業（次世代建設就業者育成事業）を実施してきた事による出雲農林高校生の建設業への入職状況は、事業実施する者として、気になるところであり、このたび、高校卒業後の進路の状況について現場見学会の開催前後で、どのように変化があったかを調べてみました。

進学、就職先として建設関連に進まれた方の割合は、第1回現場見学会に参加された生徒の皆さんが卒業された平成26年度から飛躍的に増加しており、現場見学会を通じて建設業へ興味や魅力を持っていただいた成果であると思います。今年度は進学、就職内定者数が過半数を超えています。内訳は進学1人、就職9人、その中でも4人が公務員で、やはり安定した収入が魅力な人気のある就職先の様です。

今年度現場見学した生徒の皆さんからは「現場で工夫している様子が良くわかった」、「これまでに抱いていた現場管理のイメージが変わった」、「コミュニケーションの大切さを学んだ」、「自分も現場監督になりたい」といった感想がありました。

建設労働者数の高齢化と減少が進み、技術・技能の伝承、人材の確保・育成、特に若年労働者の入職促進が建設業界全体の課題となっています。青年部会では一人でも多くの学生が建設業に関心を持ち、将来建設に関わる職業に就くことを期待しており、今後もこのような機会を通じて建設業の魅力を伝えていきたいと考えています。

卒業後の進路状況



島根県立出雲農林高等学校環境科学科 進路決定状況より

出雲農林高校(環境科学科) 中学生一日体験入学支援事業に参加して

経営研究委員会 委員
 (株)板倉重機 持田 充

平成 28 年 8 月 23 日 (火) に出雲市内外の中学 3 年生を対象とした、島根県立出雲農林高等学校主催の一日体験入学に青年部会が支援事業として初めて参加しました。

これまで、建設業における若手就職希望者の確保・促進の一環として、出雲地区で唯一の土木系専門学科(環境科学科)を有する出雲農林高校の生徒さんとは、毎年現場見学会および建設機械搭乗体験を経営研究委員会が中心となり継続的に実施しています。

今回、同校環境科学科へ進学してもらうアピールはもちろんですが、もっと若い世代に建設業の魅力を知ってもらうために、中学生の興味と関心の高揚を図ることを目的とし協力させていただきました。

青年部会では、一日体験入学に参加した約 100 名の中学生を午前の部と午後の部に分け、建設機械(0.25m³バックホウ 2 台)の搭乗体験を実施したほか、環境科学科の生徒と一緒にパネル展示や環境科学科在学生在が体験した現場見学会および建設機械搭乗体験の DVD を視聴してもらいました。

バックホウの搭乗体験では、株式会社板倉重機の若手オペレーター 2 名より丁寧に操作方法等の説明を受け、多くの生徒が緊張しながら慎重にバックホウを操作している姿が印象的でした。

パネル展示や DVD のブースでは、青年部会員によるパネルの説明等を受け、積極的に質問をする生徒も見受けられました。

また、環境科学科の生徒が積極的に中学生に話しかけて、学校生活での質問についてもしっかり笑顔で対応していました。

最後に、青年部会として初めての取り組み事業でしたが、当日は暑い中多くの関係者の皆様にご協力いただきありがとうございました。おかげさまで主要事業である『次世代建設就業者育成』・『建設業の魅力発信』をより低年齢層へしっかりアピールすることができた貴重な機会となりました。現在、環境科学科を希望する生徒が減少しているようですが、今回の一日体験入学に参加された中学生には、今後の進路に対する意識付けとなって、将来、建設業への就職を目指してくれる生徒が増えることを願っています。



地域貢献事業報告

第17回ふるさとまるごとクリーンアップ作戦

地域貢献委員会 委員

(有)川角建設 川 角 宣 広



今年度も引き続き地域貢献活動として、平成 28 年 7 月 22 日にクリーンアップ作戦を実施しました。

当日は、青年部会 34 名、事務局 2 名、出雲県土整備事務所 20 名、協力会社 3 名の参加者総勢 59 名により出雲縁結び空港に向かう周辺道路の一般県道出雲空港線、一般県道出雲空港宍道線の歩道及び路肩の除草作業とゴミ拾いを行いました。天気は快晴で、大変暑く、熱中症が心配される中の作業となりました。

空き缶や吸い殻などのゴミは少なくなってきましたが、道路脇の雑草は意外にも生い茂っており、草刈り機等を使用し 2 トンダンプ 4 台分の雑草を回収しました。

空港沿線道路清掃は、今回で 3 回目になるのでスムーズに作業を進める事が出来、よりきれいにする事が出来たと思います。また出雲空港は、平成 28 年で開港 50 周年を迎え、8 月に記念イベントが開催されました。それに先立ち清掃活動が出来たことが大変良かったと思います。

今回の清掃活動に参加された皆様、大変お疲れさまでした。



会員交流事業報告

視察研修に参加して

会員交流委員会 委員長

(株)三原組 三原 惇志



今年度の視察研修は東京において今夏参議院選挙に当選された青木一彦参議院議員のもとへ表敬訪問及び国政並びに議員活動等のご報告をお聞きすることを目的として、12月1日から2日間の東京研修を実施しました。

国会開会中のお忙しいときの訪問ということで、計画段階からの調整など分からないことだらけで不安もありましたが、部会員をはじめ関係者の方々のご理解とご協力をいただき無事成功できたことを大変うれしく思うと同時に、達成感を得ることができましたことを感謝申し上げます。

最初の訪問は、準備段階からお世話になりました衆議院議員会館内の竹下亘議員事務所へお礼と表敬訪問を行いました。その後、島田三郎議員の秘書の方に案内をしていただき、参議院議員会館の島田三郎先生と足立俊之先生を訪問させていただき、在室であった島田先生とは1時間近くお話を伺うことができました。

青木先生とは国会議事堂内にある食堂においてご一緒に昼食をいただきながら、国政などについてお話をお聞きすることができました。

夕方の懇親会では、青木先生をはじめ島田先生、竹下先生にもご参加いただき、地域の課題や問題点、これから地方に求められることなどについてお話をいただき、参加者一同勉強させていただく有意義な機会となりました。

今回の研修は、参加した青年部会員一人ひとりが、地域の建設業界の現状に対して何が求められ、何が必要であるのかを感じとることができた貴重な研修となりましたし、今後の青年部会の活動に活かしたいと思えます。

最後に、参加された部会員の皆様には大変お世話になりありがとうございました。



会員交流事業報告

土木の日記念イベントに参加して

地域貢献委員会 副委員長

今岡工務店 今岡 宏典



平成 28 年 11 月 19 日（土）に行われた、土木の日に協力スタッフとして青年部会で参加しました。今回の参加が青年部会として 2 回目の参加となりますが、私は屋外の建設機械展示ブースのスタッフとして初めて参加させて頂きました。

イベント当日は、残念なことに天候は雨模様。屋内、屋外でのイベントなので、一般のお客様の来場人数が心配されましたが、昨年以上の皆様にご来場いただきました。

屋外の建設機械展示ブースでは、重機搭乗体験として、バックホウと高所作業車が実際に搭乗できるとあって、家族連れのお客様に行列ができるほどの人気でした。

この時、お客様と話をしていると、「子供（孫）が、建設機械が好きで、将来は機械に乗って仕事をしたいと言っているんです」との言葉を掛けて頂き、大変うれしく思いました。また、「この建設機械はどこで使うんですか？ どのような場所で使うんですか？」と言った疑問も投げかけられました。

イベントに参加してあらためて、建設業の魅力発信、担い手確保・育成の取り組みについて勉強させられた一日でした。



経営研究事業報告

意見交換会 2016

経営研究委員会 委員
 岩成工業(株) 西村 善文



平成 28 年 12 月 15 日（木）に出雲建設会館において、青年部会経営研究委員会が担当する、「意見交換会 2016」を開催致しました。

研修会では、出雲県土整備事務所より、土木工務第三係長 勝部貴子様、技術管理スタッフ技術専門監 渡辺浩行様をお迎えし、ご講演いただきました。

係長の勝部様には「現場監督者の体験談」と題してご講演いただきました。これまでの監督としての体験談を女性ならではの視点でお話しいただき、建設業での子育て及び女性活躍における支援の必要性をあらためて感じました。

技術専門監の渡辺様には「出雲県土整備事務所発注工事の工事成績について」と題して、工事成績評定点の留意事項をお話しいただきました。私たち建設業者にとって工事成績評定点はとても興味があるところです。評定点の高い工事は、どの項目で高い点を得ているのかを評定項目別グラフで分かりやすく説明していただき大変参考になりました。

講演終了後は場所を変えて、出雲県土整備事務所より 10 名の参加をいただき懇親会を開催しました。膝を交えた会話の中で、普段お聞きできないお話を伺うことができ大変有意義な意見交換会となりました。

今回の意見交換会を通して、建設業における職場環境整備や工事管理方法などを今後の業務に役立てていきたいと思えます。



卒業にあたり



ミシマ産業(株) 三 島 一 男

平成 18 年度に青年部会へ入会させていただき、この度無事、卒業させていただくこととなりました。

振り返りますと、私の力不足の為、青年部会の活動や事業へあまり貢献出来なかったですし、大きな活躍も出来ませんでした。

しかしながら、入会以来 11 年間「“ふるさと”まるごとクリーンアップ作戦」事業にだけは必ず参加させていただきました。会員が一堂に会し、ひとつの目的のために共に汗を流すことは、大変素晴らしいことだと思います。

また平成 22 年・23 年度には微力ながら「地域貢献委員会」の副委員長を全うさせていただきました。時の委員長をはじめ委員の皆様にあらためて感謝申し上げます。

卒業後は、この 11 年間の経験を活かすとともに、お世話になった青年部会の皆様へ少しでも恩返しが出来ますよう精進してまいります。

最後になりましたが、会員の皆様また事務局の皆様にお世話になり誠にありがとうございました。今後の青年部会のより一層の発展を心よりお祈りいたします。



ヒカワ工業(株) 菖 蒲 修

平成 26 年度より青年部会に入会させていただきました。3 年間という短い間でしたが卒業のときを迎えることになりました。

入会后、経営研究委員会に所属させて頂き、まず、農林高校生との現場見学会の運営に携わらせて頂きました。事前の打ち合わせ、準備にかなり時間を掛け、委員長をはじめ関係各所への調整等かなり労力を費やしておられ、とても感心しました。私自身、微力ながら活動をさせて頂き、たくさんのお話を学びました。また青年部会の皆様に出会えたことが、私自身の財産となりました。次世代の建設業界を担って行くであろう皆様と、いろいろな場で、仕事のことは勿論、プライベートな事まで、真剣に、また宴の席で笑いを交えてお話しができたことはとても貴重な経験となりました。アイデアを出し合い、様々な事業を展開している青年部会の一員として短い期間ではありましたが、一緒に活動できた事はとても良い体験となりました。

最後に、この活気あふれる青年部会の皆様、事務局の皆様、本当にありがとうございました。青年部会の益々の発展を心からお祈りいたします。

新入会員紹介



大和建設(株) 布野 智 大

今年度から入会させていただき、経営研究委員会で活動させていただいております、大和建設(株)の布野智大と申します。

私が建設業に進んだのは知人の勧めでした。幼いころから物をつくることは好きでしたが、建設業での物を作るとはスケールが大きく最初は不安でした。しかし月日が経つのは早いもので建設業に従事し20年が経ちました。

この青年部会へ入会するのに最初は不安だらけでしたが、ボランティア活動・意見交換会等で諸先輩方と共に活動し、入会していなければなかった出会い・経験をさせて頂き感謝致しております。

今後も様々な活動を通じ、地域に貢献し建設業の発展の為に努力したいと思います。まだまだ至らぬ所ばかりですが、青年部会の活動に精進していきたいと思しますので、ご指導の程よろしくお願い致します。



(有)ナギラ建工 柳 樂 則 昭

今年度から一般社団法人島根県出雲地区建設業協会青年部会に入会させて頂きました。有限会社 ナギラ建工の柳樂 則昭と申します。高校卒業後、島根県の陸上自衛隊に6年間勤務しておりましたが、弊社と縁があり入社しました。

青年部会に入会して9ヶ月程ですが、ボランティア活動や出雲県土整備事務所の所長を始めとする幹部のみなさんとの意見交換会など、様々な活動に参加させて頂きました。その時は、会員の皆様はもちろんのこと様々な方々とお会いすることができ、また、多くのことを学び・経験させて頂きました。

今後も様々な活動を通して会員の皆様からご指導いただくことがあると思いますが、少しでも皆様方の力となり、建設業界、そして会社の為に努力していく所存でありますので、今後ともよろしく願いいたします。

それは、一本の電話から始まった。

「あ～安部さん、お疲れ。10月21日の夜だけど、空けといて」江戸委員長の声だ。

「はい大丈夫ですよ、わかりました。それで要件は」今思えば先に要件を確認するべきだった・・・そして、ついにその日がやってきた。ホテル栄道湖にて徳島・島根県建設業協会青年部意見交換会の懇親会で、どじょうすくいを踊りました。委員長の無茶ぶりから2週間練習し、何とか披露できる?レベルまで、途中からは曲を阿波踊りに変えて徳島の方と一緒に踊り懇親を深めました。



編集後記

2016年はここ近年の中でも話題の絶えない年だったように思います。芸能界では国民的アイドルグループの解散をはじめ多くの不倫や薬物報道、スポーツではリオ五輪の開催やイチロー選手の歴史的な大記録の達成、政治では東京都知事に小池百合子氏が就任、アメリカではトランプ氏が大統領選に勝利。また天皇陛下が退位のご意向を示唆されるなど記憶に残る大きな出来事がたくさんありました。

そして、去年は地震をはじめ多くの災害に見舞われた年でもありました。中でも心に残っているのは、10月21日に最大震度6弱を記録した、隣県であり馴染みの深い鳥取県の中部を震源とし発生した『鳥取県中部地震』ではないでしょうか。幸い大きな地震にしては建物や人的被害が少なかったと聞いておりますが、最近の報道を見ても1月下旬に記録的大雪に見舞われたこともあり、被災地の復興にはまだまだ時間がかかるようです。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

日本は外国に比べ自然災害が発生しやすい国土と言われております。大きな災害が起きた時こそ、地元建設業の力が試される時ではないでしょうか。地元建設業なくして、災害からの復旧・復興はあり得ません。これまで経験したことのない災害が日本で相次いでいる今だからこそ、地元の方々または行政との連携をとれるよう、人と人を繋ぐ架け橋となるような活動を今後とも青年部の一員としてやってまいりたいと強く感じております。

今年は一般社団法人 島根県出雲地区建設業協会 青年部会の創立20周年を迎える節目の年になります。これもひとえに皆様のご理解とご協力があったからこそと心より感謝いたしております。また今後記念事業も開催する予定になっておりますので、昨年に引き続きご支援いただきますようよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、本誌を発行するにあたりご寄稿またご協力いただきました皆様方に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

総務広報委員会 副委員長 江 角 洋 介

「青雲」

—— 題 字 ——

前島根県知事 澄田信義氏



『新しい力』

太平洋戦争において敗戦した日本。全土が焦土と化し甚大な損害を被りながらも、高度経済成長を成し遂げた。21世紀に入り、快適な生活環境重視の中、経済不安・環境問題等様々な弊害が生まれた。地球全体が温暖化に悩まされている現在ではあるが、オゾン層破壊の原因となるCO₂削減のため風力発電・太陽光発電などの新しいエネルギーが誕生し、今後も更に「新しい力」の研究・開発が進んでいく。我が青年部会も「新しい力」となれるよう精一杯邁進していきたい。

一般社団法人
島根県出雲地区建設業協会青年部会 総務広報委員会